

かけ流し温泉で育つ「奥飛騨ドラゴン」

有限会社 FRUSIC（フルージック）（高山市）

団体概要

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷栃尾に本社がある農業生産法人で、平成 17 年 7 月 29 日に設立しました。

- 1 観農資源をテーマに、観光と農業が連携し、温泉という地域資源を有効利用し、地域と共に歩む。
- 2 地産地消を目指し、人を呼べるものづくりをする。
- 3 環境問題に取り組む新しい形の農業を、岐阜県高山から全国、世界へ発信することを目標としています。

取組概要

地域資源である温泉の熱を独自開発した熱交換システムで有効利用し、冬季マイナス 15 にもなる奥飛騨温泉郷でトロピカルフルーツをハウス栽培しています。当ハウスは化石燃料を一切使用しない、CO₂ 排出ゼロハウスを実証しました。生産した果実は、「奥飛騨ドラゴン」（地域資源認定）と名付け、ご当地グルメとして、また、夜にしか咲かないドラゴンフルーツの花を温泉客が観賞できるなど、観光業との連携を図り、地域と共に歩む農業の形を目指しています。

地域特性

常時 65 前後、毎分 60ℓの単純泉（栃尾温泉）と観光地と連携した果実の地産地消を実施しています。また、高山市の知名度を活かした全国向けの加工品の販売を目指しています。

独自性

ハウスでは、温泉をそのまま流すのではなく、独自開発した熱交換システムによりメンテナンスに配慮した施行をしています。また、ハウスの軒高も 5m とし、空気の対流を考慮して保温性、冷却性（暑過ぎないように）を配慮しています。

各主体の連携

J A ひだ、奥飛騨観光協会、高山市、岐阜県、国土交通省と連携して事業を実施しています。

事業継続性

地域と共に歩む農業を目指して、生産した果実を旅館、民宿等へ提供して、ご当地グルメを定着させることで地域ブランドを確立し、地方産業との連携をうみ、地域の活性化につながります。

事業発展性

ドラゴンフルーツだけではなく、アセロラ、花、野菜も視野に入れ、温泉熱利用のハウスを増設していきます。

CO₂ 排出量削減効果

温泉熱利用により、夜間暖房及び冬期間の 24 時間暖房に必要な重油 90,000ℓが節約でき、約 227,520kg-CO₂ が削減されます。